

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|------------------|
| I. 理念に基づく運営 | <u>11</u> |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | <u>2</u> |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | <u>6</u> |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | <u>11</u> |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | <u>30</u> |

| | |
|-------|----------------|
| 事業所番号 | 2570100459 |
| 法人名 | 有限会社 かねだ |
| 事業所名 | 南郷グループホーム ほたる |
| 訪問調査日 | 2007年 5月 15日 |
| 評価確定日 | 2007年 6月 30日 |
| 評価機関名 | 社団法人 滋賀県社会福祉士会 |

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 5月26日

【評価実施概要】

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 事業所番号 | (※評価機関で記入) 2570100459 |
| 法人名 | 有限会社 かねだ |
| 事業所名 | 南郷グループホーム ほたる |
| 所在地 | 大津市南郷一丁目7-21 (電話) 077-534-5508 |
| 評価機関名 | 社団法人 滋賀県社会福祉士会 |
| 所在地 | 滋賀県野洲市富波乙681-55 |
| 訪問調査日 | 平成 19年 5月 15日 |

【情報提供票より】平成19年4月30日事業所記入)

(1)組織概要

| | |
|-------|------------------------------|
| 開設年月日 | 昭和・平成) 15年 6月 1日 |
| ユニット数 | 2 ユニット 利用定員数計 18 人 |
| 職員数 | 13 人 常勤 8 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 人 |

(2)建物概要

| | |
|------|-------------------------|
| 建物構造 | 鉄骨造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分 |
|------|-------------------------|

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|---------------|----------------|-------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 58000~66000 円 | その他の経費(月額) | 光熱水費15,000円 | |
| 敷金 | 有(円) | | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(120,000 円) | 有りの場合 償却の有無 | 有) 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 400 円 | 昼食 | 500 円 |
| | 夕食 | 600 円 | おやつ | 100 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4)利用者の概要(4月30日現在)

| | | | | | |
|-------|--------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 18名 | 男性 | 1名 | 女性 | 17名 |
| 要介護1 | —名 | 要介護2 | 8名 | | |
| 要介護3 | 5名 | 要介護4 | 3名 | | |
| 要介護5 | 2名 | 要支援2 | —名 | | |
| 年齢 | 平均 87歳 | 最低 | 78歳 | 最高 | 96歳 |

(5)協力医療機関

| | |
|---------|------------|
| 協力医療機関名 | 金田医院 なむら歯科 |
|---------|------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは瀬田川の西側に位置し、徒歩で移動できる生活圏域の中に郵便局、銀行、スーパーなどがあり、便利な環境の住宅街の中にある。鉄骨造りではあるが暖かな色合いで統一され、なじみやすい雰囲気となっている。
共同生活らしくない個別ケアをめざし、「楽しくゆったりと、自分らしくありのままに」を理念に掲げ、職員がそれを十分認識し毎日のケアの中で実践していることは、声かけや表情で読み取れる。関連施設金田医院、金田デイサービス等との連携をフルに活用し、利用者の豊かな日常生活に役立てている。介護計画は、一か月ごとにたてられる具体的な支援目標を基に作成されており、3ヶ月に1度、あるいは状況に応じてその都度、見直しはされ、実効性のある支援が期待できるものとなっている。利用者、職員とも表情はととても明るく、楽しい会話の飛び交う施設である。

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>公表された評価は全職員が共有し、改善を要する事柄について取り組まれた結果が伺える。現在、口腔ケアは朝、昼、夜と行われている。居室の表札についても指摘されたように高齢者の目線に合わせて低い位置に設置されたようであるが、手が届く位置となったため表札を居室内に持つはいつてなくなるなどの新たな問題が生じたために今は以前の位置に戻して対策を模索中である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価はグループホームの質を高める為に重要な意味を持つものとして、職員全員で取り組んでいる。関わる職員が多ければ、いろいろな視点から検討できることになり、気付きも多いと考えている。課題を共有して取り組むためにも自己評価は大切なものとして位置づけている。</p> |
| | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では活発な意見が交わされている。災害対策、認知症の理解、ターミナルケア等、議題の範囲は広い。会議での話し合いから地域の防災組織とのつながりを持つきっかけとなったり、グループホームの持つスキルを地域に還元するきっかけ作りに発展することもあり、大いに有意義なものとなっている</p> |
| 重点項目② | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームは家族の意見・苦情を大切に受け止めようとの思いを強く持っており、ことあるごとに家族の意見を聞くことに気を配っている。しかし、ホームの思いが家族に十分伝わっていない部分もあり、意見を求めても言ってくれない家族もある。また、意見箱の利用もほとんどない。 家族会をうまく運用しながら、ホームの取り組みや思いを伝えていく工夫が求められる。</p> |
| 重点項目③ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入会している。ホームが出来る範囲で地域に貢献できればと、道端に植えられた花の水遣りなど自主的に行っている。地域の催し事に参加するといろんな人に声をかけられ、地域の中のホームをアピールできる機会になっている。 関連施設の敷地の奥に位置している為地域の人が気軽にという環境ではないが、広い空間もあり近くの人を巻き込んだ催し等を企画して欲しい。</p> |
| 重点項目④ | |

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 共同生活ではあるが家庭的な環境のもとで、家族や地域の方々との交流を大切にしながら、その人らしさを失うことがないよう、ごく普通の日常生活をゆったりと楽しく送ることを理念としている。理念に基づき「ケア指針」を作成し、理念と共に掲示している。 | | |
| | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 毎日、朝礼時に再確認するためみんなで「ケア指針」を唱和している。 管理者、職員ともまず自分たちが楽しくゆったりと仕事することが、利用者にとっても楽しい日々につながるものとして実践に取り組んでいる。 | | 管理者と職員は日々の生活の中で共に理念を意識しながら、入居者にとってグループホームが居心地のよい生活空間となるように、常に検討を重ねている。 |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 近くの老人センターに遊びに行ったり、夏祭り、盆踊りなどの地域のイベントに積極的に参加している。自治会にも入会し、道端に植えられている花の水遣りなどを自主的に行っている。地域の中学校2校の体験学習を受け入れている。生徒たちの感性から学ぶことも多く、職員の頑張りの基にもなっている。 | | 隣接した住民から苦情を受けたとき、お詫びに行くと共に認知症のことをよく説明して理解していただいた。このような職員の取り組みが地域の一員としてつながりを持ちながら暮らしていくことにつながる。今後も、さらに積極的に地域で暮らし続けるための基盤作りに取り組んでほしい。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価は、グループホームの質の向上を図る上で重要課題と位置づけ、全職員で取り組んでいる。 外部評価の結果については、みんなで話し合い、指摘のあったことに対しては改善に向けて検討し実践につなげている。 | | 運営者・管理者および全職員が年一回の評価に計画的・継続的に取り組み、サービスの質の確保・向上に活かしている。 |
| | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度、開催する運営推進会議ではホームの日常を紹介、サービス内容の説明を行い理解を得たり、評価結果やホームの取り組みを報告する中で、出席者の活発な意見やアドバイスを受け、質の向上につなげている。参加者から災害時に地元の消防団や地域の人の協力を得るよう助言をしてもらったこともある。設定時間をオーバーしての会議となることも多く、ホーム側としては楽しみな会議となっている。 | | 地域の理解と支援を得るための貴重な機会として運営推進会議を捉えている。積極的に参加してもらえるような働きかけを、今後も期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|---|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 医療連携体制導入や運営推進会議設置等、新しい取り組みの始まる時や疑問点があるときなど、事あるごとに行政担当者に相談・協議している。 関係作りを積極的に行い、意見交換も日常的に行っている。 | | 地域密着型サービスとしてさらに積極的に行政との連携に取り組んでほしい。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 月に一度、担当の職員が手紙で入居者の日ごろの様子を家族に知らせている。外出のときの写真や日常生活での何気ない様子の写真があれば同封したりしてホームが家族にとってより身近になるように取り組んでいる。調査訪問時、家族が来られていたが、職員は気軽に声をかけ、訪問しやすい雰囲気作りをしていた。 | | 入居者の様子をきめ細かに家族に伝えることで、本人と家族の関係修復につながったケースもある。家族の安心を確保し、ホームとの信頼や協力関係を築くためにも、家族が知りたい点を考慮し状況にあわせた個別の報告を、今後も継続してほしい。 |
| 8 | 15 | 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | サービスの質の確保・向上のためには家族からの率直な意見・苦情を聴くことが重要であることを認識しており、介護計画の変更時や家族会で外に出かけた時などに、意見を聞くよう努めている。玄関には意見箱(職員の手作り)を置いているがあまり利用はない。家族には意見や苦情を伝えてもらえるように繰り返し説明している。 | | ホーム側としては、なんでも遠慮なく話してほしいとの素直な思いがあるが、意見を求めても言ってもらえない家族もある。家族は意見・不満を言い難いということを理解・配慮して、家族会での意見交換会を開催するなど率直な意見・不満を言いやすい機会を作るなどの工夫してほしい。 |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | どうしても利用者とは折り合わないとき以外は混乱を防ぐ為、異動は極力必要最小限に抑えるよう努力している。今のところ新任職員についても、職員同士が補い合っているため混乱は見られない。職員の異動は家族には月に一回送る手紙で伝えると共に面会時に紹介している。 | | 入居者だけでなく、家族も訪問時に馴染みのない職員がいることは不安につながる。職員の異動はその都度、家族にも伝えたいと思う。 |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修は勤務の一環として対応され、事業所内外に関わらず内容に応じて参加者を決定し、積極的に参加している。研修で知りえたことは持ち帰り、ミーティングで報告、その内容を共有している。職員には「ユニット内のスペシャリスト」になるよう機会あるごとに話し、職員の質の確保・向上に向けた育成に努めている。 | | 職員がそれぞれの立場・経験・実践の習熟度等に応じて、段階的に力をつけていくために、年間計画の中に研修を位置づけ、それに合わせた運営面での工夫を今後も期待したい。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会や研修会で同業者との交流の機会があり、気付きや情報交換の場として貴重であると捉えている。参加者によって視点が異なるため、できるだけいろいろな職員が参加できるようにしている。 | | 交流会での演習等でそれぞれの施設対応について意見交換するなかで、自分たちの施設の優れている点、あるいは改善すべき点についても知りえることもあり、よい励みにもなる。また、他施設の職員と交流できることは、職員のストレス発散の場ともなると思うので、今後とも、積極的に交流機会をとらえ、参加してほしい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|------|---|
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入所までに何回も面談をし、要望があれば体験入所を行ったりして、時間をかけて安心して利用していただけるようにしている。新しい入居者には職員が仲立ちをして少しずつ、馴染んでもらうように工夫している。 | | ホームの生活に馴染めるかということは、本人だけでなく家族にとっても心配なことである。体験入所だけでなく、職員が自宅を訪問したり、昼間、遊びにきてもらうことなどを繰り返すなかで馴染みの関係を作り、本人の安心と納得を確保しながら利用につなげるなどの取り組みも今後検討してほしい。 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は人生の先輩として敬う気持ちを根底に置き、日常を過ごす中で多くの知恵を入居者よりいただいている。掃除のコツ、洗濯物の取り扱い、季節の料理等のアドバイスをもらうことも多い。職員はただ単に一緒にいるという関係だけでなく、大切な人と一緒にいるように寄り添って一緒に過ごしている。 | | 今後、入居者の症状が進んだ場合でも、一方的に介護する関係ではなく、状況は変わっても共に支えあう関係を継続できるようにしてほしい。 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 自分からあまり意思表示されない方も、必ず何らかのサインを出しておられると確信し、そのサインを見落とさないように、職員は一人ひとりを観察し、記録に残している。綿密につけられた介護日誌の中に記録されている発せられた言葉によって気付くことも多い。入居時のアセスメントは時間と回を重ねて行い、家族の了承を得て録音し、全職員で聞いてアセスメントシートを作成。聞き漏らしのないようにしている。 | | 担当職員だけでなく職員全員が、入居者一人ひとりの思いや意向について関心を払い、把握するように努めている。またその情報を全職員で共有するよう取り組んでいる。今後も全職員で情報を共有する取組みを継続して欲しい。 |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 月一回の会議の1時間をユニット会議にして、入居者一人ひとりについて「先月の目標の実績と反省」「先月の反省を踏まえた今月の目標(課題)」を職員全員で話し合い、具体的な「目標(課題)」を決めている。それを基に家族の意見も取り入れ、介護計画を作成している。 | | 介護計画は漠然としたものではなく、具体的な目標をきめ細かに立てている。入居者一人ひとりの日常生活に関わる課題(目標)が明らかになった、具体的な介護計画が作成されており、今後もこのような具体的な介護計画の作成を継続して欲しい。 |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 基本的に3ヶ月に一度の見直しとなっている。担当している利用者の観察はそれぞれ丁寧に行い、常に何が出るかを念頭に置き、具体的な目標とその成果が次の介護計画へと繋がっている。 | | ちょっとした作業、きっかけが機能回復へと繋がることもあり、丁寧に観察することの重要性を理解している。本人や家族の意向、状況を把握しながら職員の気付き、ケアの工夫等、見直ししながら実情に即した介護計画となるよう、今後も期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|---|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 医療連携体制を導入することにより、24時間の健康管理・医療活用の強化が実施できている。希望する入居者は、併設のデイセンターに出向き電気治療やマッサージを受けることができる。また、自主サービスとして、希望者は訪問理美容サービスを受けることができる。 | | 介護保険以外のサービスが、入居者や家族の希望により柔軟に利用できる体制があり、より充実した生活が送れるようになっている。 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 希望により、今までのかかりつけ医に受診する時は、身体状況・情報が書面で医療機関に提供され、家族は安心して受診できる。また、受診後は書面で、グループホームに診察結果・情報が提供される。協力医療機関には医療情報が提供される。定期健診については大津市の老人健診を活用している。 | | 毎日一緒に生活していない家族による受診の場合、日々の状況・心身の状態を適切に医療機関に伝えられているかという不安を持つことがある。適切な診療を受けられるように医療機関への情報提供がされており、今後も継続してほしい。 |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化した場合や終末期のあり方については入所の契約時から何度も話し合いを重ね、方針を共有している。またターミナルケアについての研修会をホーム内で実施している。ホーム内で看取りを終えた経験があり、その時の克明な記録が残されていて、その時々々の様子や職員全体のケアに対する思い入れがよく解かる。 | | 職員は毎日生活を共にしている入居者を、他の入居者と一緒に静かに見守りながら看取りたいという思いは強く持っている。しかし反面、本人・家族の希望があっても看取ることができない状況も起こりうることを理解している。今後も、そうした場合に備えて、機会あるごとに話し合いを重ね、より良い連携体制作りに取り組んでほしい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 理念にある、楽しくゆったりとした雰囲気作りを大切にしながら職員は丁寧に接している。同じ目線で話すことを常に心がけ、利用者の自尊心を損なうことのないように気を配っている。入居者の居室に入るときは必ず、声かけをしてから入室していた。 | | 今後も、職員の意識向上を図ると共に、日々の関わり方を確認して、入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っていくことを期待したい。 |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの目標をいつも認識するように個別ファイルの1ページ目に綴じている。それぞれの介護計画を常に意識の中に置きながらも、外出やレクリエーションへの参加、入浴、昼寝など本人の思いを尊重した支援となっている。特に、起床時間・朝食時間は本人の思いに沿っているため、思い思いの時間となっている。 | | 入居者一人ひとりのその日の望みを知ることを大切に、それに応じて柔軟に支援している。今後も一人ひとりの思いを尊重した支援を継続してほしい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎朝その日のメニューを入居者の意向を聞きながら決めて、近くのスーパーへ買い物と一緒に出かける。定期的に献立表を栄養士にチェックしてもらっている。調理もできることは一緒にやってもらっている。訪問時、夕食の餃子作りを職員と入居者が一緒にしていた。家族から差し入れられた食材を利用する中で、話も膨らみ楽しい食事となっている。一日2回のおやつも、職員の手作りで入居者も一緒にできることは行い、おいしそうな香りとともに話が弾む。 | | 特にお菓子の焼けるにおいは、入居者の楽しみにつながっている。入居者が喜ばれると職員の喜びにもつながり、次の課題に取り組む原動力にもなっている。今後も継続してほしい。 |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 午前、午後2回の入浴時間が設けられており、希望により大浴場、家族風呂と選ぶことが出来、基本的には2日に一度の利用となっている。大浴場では機械浴も可能であり、車椅子の方も入浴しやすくなっている。大浴場ではおなじみさんと入る楽しみがあり、心待ちにされている方もおられる。 | | グループホーム内の浴室だけでなく、併設のデイセンターの大浴場を利用でき、車椅子の方も、入浴が容易にできる。ホーム内にとまらず、法人の施設を利用し、豊かなサービスの提供の継続を期待したい。 |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | こと細かく聞き取られたアセスメントシートを参考に、今までの生活歴から想像される得意なことを見つけ出し、支援に役立てている。スーパーの袋たたみ、掃除、牛乳のパックきり、ボタン付けなど、自分の仕事として楽しみながら行われている。 | | 役割を持っていただくことは、「役にたっている」という思いにつながり、本人や家族の喜びや今後に向けた希望につながる場合もある。「本人が生きていくことへの支援」という本来の関わりのあり方、ケアのあり方への気づきを一層深めていってほしい。 |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 四季折々の楽しみを与えてくれる千丈川を中心に、近くに公園や公共施設があり、外出が容易に出来ることもあって其の機会は多い。また、スーパーやドラッグストアも近所にあり、買い物にも気軽に出かけられる。併設のデイセンターでの催しに参加することも多い。 | | 特別な外出だけでなく、散歩や買い物に近所に出かけることは地域との関係の継続にもつながる。一人ひとりの習慣、希望、季節の行事等、その時々状況に応じた支援を今後も継続していってほしい。 |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関にはセンサーが取り付けられておりチャイムがなるようになっているが、日常的には鍵はかけていない。外出願望が強く出ている利用者がいる時、やむなく施錠する時もある。そのような場合は職員と一緒に出かけ、その方の気持ちに沿うことにより解決できることが多い。 | | 玄関は職員の目の届きにくいところにあるが、チャイムがなるとすぐに職員が出て行くなど、対応している。近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をもらえる関係づくりをより深めていってほしい。 |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 災害時の対応マニュアルも用意し、地域の消防署に指導を受け入居者と共に年に一度の避難訓練を行っている。緊急時を想定し、警察署、商店、老人センター等すぐに渡せるように、入居者の写真つきプロフィール表を個々に用意して、もしもの時の対応に備えている。 | ○ | 屋間の対応だけでなく、いろいろな時間、特に夜間を想定した訓練も今後の課題として取り組んでほしい。また、災害に備えて食料や飲料水等の備蓄も、少なくとも2～3日分は必要と考えられる。また災害時の地域の協力は不可欠である。それがスムーズに行われる為にも、地域の自衛消防団を防災マニュアルに位置づけることが必要ではないか。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------|----|---|---|------|--|
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 入居者一人ひとりの食事摂取量、水分量はきちんと記録されている。日々のカロリーはカロリー表でチェックしているが、定期的に併設施設の管理栄養士にアドバイスをしてもらっている。カロリー制限等医師の指示のある人や日ごろからあまり水分を取られない人については、その記録をもとに特に注意が払われている。 | | 水分摂取量を1200ccと目安を決め、栄養摂取だけでなく水分摂取についても記録を残している。高齢者は周りが気付かない間に脱水症状を起こすこともあるので記録をもとにチェックすることを継続してほしい。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リハビリを兼ねた入居者の手作り品が飾られ、訪れた人への話題提供に一役かっている。要所要所に椅子やソファが置かれ、思い思いの時間を過ごす場所が確保されている。食事時には静かな音楽が流れ、不快な音や光は感じられない。 ホーム玄関の庭先には季節の花が植えられ家庭的な雰囲気となっている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れたなじみの家具が持ち込まれている。家族の写真、遺影などが飾られ入居者とのつながりが伺える。共用空間で過ごすことが多い方なのか、居室のしつらえにあまり関心がないのか殺風景な居室もある。 | ○ | 居室によってはコンクリート魂だけしか目に付かない箇所もある。窓の外に鉢植えやプランターの花を置くなど、もう少し変化のある居室環境の工夫がほしい。 |